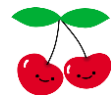




さくらんぼ



自ら動き、感じ、楽しむ
～笑顔あふれる幼稚園～

NO.3 令和元年6月28日発行
山口大学教育学部附属幼稚園
URL: <http://www.ymg-kg@yamaguchi-u.ac.jp>

今月は、保育参加・保育アシスタント、ピーマンJr.の会など、保護者の方々にお世話になりました。保育参加・保育アシスタントでは、お子さんが園でどのように過ごしているか新しい発見が多かったことと思います。また、ピーマンJr.の会では園庭の清掃をしていただき、園内がとてもきれいになりました。ご協力ありがとうございました。

初めての保育参加(花組)

幼稚園で過ごし始めて3か月が経とうとしています。花組の子どもたちは、自分の好きな遊びが見つかったり、いろいろなものに興味をもってやってみようとしたりと、幼稚園での世界が少しずつ広がっているように感じます。

6月の1週目には保育参加やピーマンJr.の会があり、たくさんの保護者の方々に参加していただきました。子どもたちの園での様子を実際に見て感じて、知ることができたかと思います。普段は園にいないお母さんやお父さんがいるという嬉しさから、いつも以上に子どもたちの笑顔があふれていました。ぎゅっと手を握って一緒に遊びを楽しんだり、「素敵だね!」「面白いね!」と共感してもらえて嬉しくなったりと、子どもたちにとっても充実した1週間になりました。



初めての保育参加で、幼稚園で実際に遊ぶ姿を初めて見たという方も多くいらっしゃいました。おうちに帰って子どもが話すことが、実際に見ることで“このことだったのか!”とつながったという声もたくさんありました。また、「泡を使っての遊びで、没頭したり、集中して楽しんだりする姿があったことに驚いた!」「家で遊ぶときはニコニコだけど、幼稚園で遊ぶときはワクワクした表情になっている。」などの感想もいただきました。子どもたちの様々な表情にも気づいていただけて嬉しく思います。泡という素材1つにしても、感触を楽しんだり、泡をご馳走に見立てて遊んだり、容器の中に集めようと繰り返しやってみたりと、様々なかわり方が見られます。子どもたちのイメージの豊かさや楽しいことを考える力には、大人の方が教わることが多いなど感じている日々です。夢中になって遊びを楽しむ中で、いろいろなことを感じて経験しているのだなと改めて考えさせられます。今回の保育参加が、子どもたちの世界を覗き見たような良い時間となっていれば嬉しく思います。

保育参加から約3週間経ち、また子どもたちの姿も少しずつ変わってきているなど感じているところです。友達の存在に触れて一緒にいることが楽しくなってきた子ども、自分の好きなことが見つかって夢中になって遊ぶ子ども、いつもと違う遊びもやってみようとして一歩踏み出した子ども…。子どもたちの成長はそれぞれですが、一人一人思いをもって幼稚園に来ているのだと思います。それぞれのペースに合わせ園と家庭とで連携しながら子どもたちの成長を見守っていきたいと思います。

(高橋)

保育参加でともだちのお母さんと遊んだよ(風組)

風組での生活にもすっかり慣れた5月下旬に、保育参加がありました。おうちの方が一緒に遊んでくださることが嬉しくて前のめりになって話しかける姿や、日頃している自分の好きな遊びを紹介してまわる姿が見られました。保護者の皆様様が温かく子どもたちの思いを受け止めてくださり、暑い外での遊びにも心ゆくまで寄り添ってくださったので、どの子も満足感でいっぱいの表情で過ごした4日間になりました。



それぞれが、友達のお母さんたちに吸い寄せられていくので、担任として若干の寂しさを感じておりましたが、子どもたちの日常を、少し離れたところから見ることもまた新鮮で、今この環境で過ごせることに幸せを感じていました。

保育参加後のミーティングでは、保護の皆様から、

「まだまだ数人のグループだけど、友達との関わりができているところに成長を感じました。」

「友達と遊ぶところは見られなかったけれど、日ごろ遊んでいる場所をすべて見せてくれました。」

「けんかになりそうな場面があったけれど、自分たちでそれとなくおさめていて、花組の時からの成長だと思いました。」

「話し合っただけで遊びをつくっているのがすごいなと思いました。」

などの感想をいただきました。保護者の皆様のお立場もそれぞれで、過去の子育て中の悩みやそれぞれの経験談、小学校に進んでからの様子など、いろいろなお話も聞かせていただきました。同じように子育て中の方からの言葉は、日ごろ頑張っておられる皆様にとって安心感のあるものであったと思います。

保育参加を経験し、子どもたちはまた一つステップアップしたようで、これまでに増して友達との関わりが見られるようになっています。虫好き仲間は「ここは、アリのいっぱいだよ。」「トンボを捕まえるときは、じっと待ってくんよ。」などの情報交換をし、虫取りの楽しさが広がりました。また、うんていを頑張るAちゃんのチャレンジに「が〜んばれ!が〜んばれ!」と自然に応援の声が上がり、もうひと頑張りの後押しすることもありました。

自己主張全開で、時と場所を選ばずに全力でぶつかってくる4歳児に

向き合うことは、かなりのエネルギーが必要です。今回の保育参加がそのための充電になっていると嬉しいです。一緒に4歳児の子育て楽しみましょう。

(中原)

農場での保育アシスタントにお父さん方も大活躍(星組)

星組は毎月大学の附属農場に行き、栽培や野遊びを体験しています。栽培活動はグループ(1グループ5、6人)で行い、そのグループごとに保育アシスタントとして保護者の方に付いていただいています。6月の農場での活動は、サツマイモの植え付けとジャガイモの収穫です。作業量が多く、参加する保護者の方々も気合いが必要な回です。そのことが分かっておられるからか、今回は保育アシスタント8名中5名がお父さん方でした。そのお父さんの中には、お子さんが花組の時にピーマンJr.の懇親会で、当時の星組のお父さんから「農場はお父さん方も1回は絶対行った方が良いですよ。」と勧められ、「星組になったら参加しよう」と2年間思いを持ち続けて参加された方や、お兄ちゃんが星組の時もジャガイモ掘りだったので、今回も立候補でジャガイモ掘りに参加された方もおられました。



サツマイモの植え付けでは、子どもたちは「種を植える」

「サツマイモを植える」と思っていました。しかし、「ツルを植える」ことを野菜レンジャーさん(附属農場の技官さん)に教えてもらいました。保護者の方の中にも「そうなんだ」という反応が見られました。丁寧に植え付けをした後しっかり休んで水分補給し、いよいよジャガイモ掘り。大人が鍬で土をほぐし、子どもたちは小さいスコップと手でジャガイモを探します。鍬を使うのが初めてのお母さんもおられ、ジャガイモを鍬で真っ二つにして「ごめんね、やっちゃった」と子どもたちに謝る姿の側で、お父さん方の力強い掘り起こしが行われました。子どもたちが一通り掘った後も、お父さん方が確認の掘り上げをしてくださり、例年よりも多くしかも傷のないジャガイモが収穫できました。収穫後すぐに野菜レンジャーさんがタッチオープンを使ったジャガイモの蒸し焼きをつくってください、子どもたちも大人も一緒にいただきました。



保育アシスタントでの体験を保護者の方にさせていただいている記録アシスタントノートには、「子どもたちの成長ぶりを改めて確認でき、また自分の心のリフレッシュにもつながり有意義な一日になりました。」など疲れたことなど忘れて楽しめた感想が沢山

残されています。保育アシスタントを楽しみにされる保護者がますます増えそうでうれしいです。

(高田)

朝晩は冷えますが、日中は暑い6月でした。いいお天気の日が多く、シャボン玉をしたり、水や泡でたくさん遊ぶことができました。そろそろ梅雨入りでしょうか。雨に誘われてカタツムリなどの生き物がやって来るのを、今か今かと楽しみに待っています。

編集担当：中原